

ミドルマネジメント向け DXセミナー

開催日 2021年10月8日、15日、22日、29日（全4回）（各回金曜 18:00～19:30）

会場 ZOOM

受講者 100名程度

受講対象 企業や自治体でDXを活用して事業の効率化やイノベーションを企画する立場の職員・社員（部長・課長クラス）

受講料 無料

講師 神戸大学
株式会社日立システムズ（RIDX会員）
株式会社eftax（RIDX会員）

※テーマについては変更となる場合がございます

本セミナーでは、ミドルマネジメント層の方に、データサイエンスを適用したデジタルトランスフォーメーション（DX）に興味を持っていただくために、4つのテーマを設定いたしました。

回数	日時	テーマ
第1回	10月8日(金) 18:00-19:30	製造分野 「AIを活用しサービス向上！」
第2回	10月15日(金) 18:00-19:30	マーケティング分野 「営業におけるDX改革！」
第3回	10月22日(金) 18:00-19:30	コミュニケーション分野 「言語情報の有効活用！」
第4回	10月29日(金) 18:00-19:30	DX事業化に向けて 「DXによるビジネス価値創出」

<申込方法>

以下のURL内のお申込みフォームより、必要事項をご入力いただき、お申込みください。

https://www.kokuchpro.com/event/202110_DXMM/



<お問い合わせ先>

一般社団法人
デジタルトランスフォーメーション研究機構
(RIDX)

TEL : 080-7724-2365

E-mail : office@ridx.jp

セミナー概要

コロナ禍において、在宅勤務、在宅授業などで社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）化の必要性が高まっています。変化の激しいビジネス環境や顧客ニーズが多様化する現在の社会では、あらゆる場面でデータの活用やデジタル技術が不可欠です。これらについては、企業・自治体内の情報システム部門だけでなく、事業・サービスを主導するミドルマネジメント層が理解していなければ、事業の効率化やイノベーションを期待することはできません。今や業務、経営とデジタル化は完全に一体となっています。

本セミナーは、ミドルマネジメント層に幅広いビジネス分野でDX化に興味を持っていただくために「マーケティング分野」「製造分野」「コミュニケーション分野」「DX事業化に向けて」の4回コースとしました。データサイエンスを適用したDXに絞って具体的な活用事例を紹介した後、その背後にある数理を解説し、神戸大学ならではの工学的な観点からだけでなく、社会学的観点からも問題解決に取り組むことを狙いとした全体構成としております。

本セミナー受講により、企業のデータサイエンスにおけるデザインシンキングの重要性を理解していただき、経営層に対してDX化の意思決定に必要な情報を提供し、企業内でDX化を推進するための一助となれば幸いです。

第1回「製造分野（AIを活用しサービス向上!）」

DXと製造業のサービス化
[神戸大学大学院経営学研究科 南 知恵子 教授]
機械加工を自動化する製造DXへの取組み
[神戸大学大学院工学研究科 西田 勇 助教]

製造分野では、サプライチェーンの各所でデータサイエンスが使われていますが、さらなる効率化、品質向上を目指した技術革新のニーズがあります。その内容は、生産計画の最適化、ファクトリーオートメーション、品質検査、異常予兆検知など多岐に渡ります。DX化の波は、このような製造工程に関わる改革から、製造業が提供する様々なサービスの付加価値を向上させる取組みへと拡がっています。本セミナーでは製造分野でのDXの概要を論じ、生産設計を支援するCAMソフトウェア等に関するAI技術などを紹介します。

第2回「マーケティング分野（営業におけるDX改革!）」

ビジネス・マーケティングにおけるDX概論
[神戸大学大学院経営学研究科 森村 文一 准教授]
システム情報学によるDX事例紹介
[神戸大学大学院システム情報学研究科 藤井 信忠 准教授]

マーケティング分野では、データサイエンスの有効活用が重要となっています。ビッグデータの活用は、販売Web画面開発から、商品のレコメンデーション、都市開発計画など、マーケティング分野の多岐に渡っています。しかし、DXによるマーケティングでは、データの収集・分析手法の選択、営業プロセス等の見直しなどの様々なハードルがあります。本セミナーではマーケティング分野でのDXの概要を論じ、店舗設備のレイアウト最適化、食サプライチェーン最適化などを紹介します。

第3回「コミュニケーション分野（言語情報の有効活用!）」

コーパス言語データからの情報抽出
[神戸大学 大学教育推進機構/大学院国際文化学研究科 石川 慎一郎 教授]
言語データの分類と関連データの発見
[神戸大学大学院工学研究科 白石 善明 准教授]

コミュニケーション分野として、ほとんどの企業にはコンタクトセンターが存在します。コンタクトセンターは、これまでは労働集約型のビジネスでしたが、深層学習などのAI技術の進展により、これまで蓄積されているビッグデータの活用が可能となっています。しかし、ビジネス応用のためには、深層学習と自然言語処理に関する深い知見が必要であり、企業が取り組むには高いハードルがあります。本セミナーではコミュニケーション分野でのDXの概要を論じ、言語データのコーパス分析例、セキュリティに関する言語レポートの分類などの事例を紹介します。

第4回「DX事業化に向けて（DXによるビジネス価値創出）」

DX実現のプロセス（デザイン・シンカーの役割）
[株式会社日立システムズ（RIDX会員） 森田 素 氏]
機械学習システム運用に必要な観点～PoCで終わらせないために
[株式会社eftax（RIDX会員） 中井 友昭 代表取締役]

DXの事業化に向けて、ここではデータサイエンスの標準サイクル(CRISP-DM)に即して、分析前に経営者とデータサイエンティストの橋渡しの役割を果たす「デザイン・シンカー」と、継続的な価値提供の要である分析後の「運用」の2点に的を絞って概論します。データ分析の前後を担う人材さえ社内であれば、社外のデータサイエンティストに分析を依頼することでデータサイエンスを事業化することができます。つまり、希少なデータサイエンティストを必ずしも自社に抱えておく必要はなく、データ分析については大学との共同研究や、専門企業に依頼するという道もあるということを示します。